

廃棄物熱回収施設設置者認定制度に関する検討会
第1回 議事録概要版

1. 日 時：平成22年10月26日（火）14：00～16：00
2. 場 所：航空会館801号会議室
3. 参加者：（委員）川本委員（座長）、高岡委員、藤吉委員、風祭委員、
白谷委員、西垣委員（欠席）
環境省廃棄物・リサイクル対策部
産業廃棄物課 廣木課長（欠席）、足立課長補佐、山縣課長補佐、
古谷施設整備指導係員
廃棄物対策課 工藤係長
廃棄物・リサイクル制度企画室 湯本室長補佐、河田係員
企画課 近藤法令係長
事務局
(株)エックス都市研究所 西川、澤地、長谷川、鈴木、町田
(株)アーシン 吉川
(社)日本環境衛生施設工業会 角田、薄木（欠席）、長田
4. 議 事：
 - (1) 廃棄物熱回収施設設置者認定制度の概要
 - (2) 本検討会の進め方
 - (3) 熱回収施設設置者認定マニュアルにおける検討課題
 - (4) その他
5. 配布資料：
 - 委員名簿
 - 資料1 廃棄物熱回収施設設置者認定制度に関する検討会 設置要綱
 - 資料2 廃棄物熱回収施設設置者認定制度の概要
 - 資料3 本検討会の進め方（案）
 - 資料4 熱回収施設設置者認定マニュアルにおける検討課題

 - 参考資料1 熱回収施設設置者認定制度に係る廃棄物処理法の関係条文及び
政省令において定める予定の事項について
 - 参考資料2 産業廃棄物焼却施設における熱回収設備状況等調査票
 - 参考資料3 アンケート結果

議事（１）廃棄物熱回収施設設置者認定制度の概要

○資料２ 廃棄物熱回収施設設置者認定制度の概要

資料に基づき熱回収の状況、熱回収率の算定式・基準値などについて説明した。

（熱回収率について）

熱回収率は10%とした。

（認定制度の考え方）

本制度は、全体として熱回収率を引き上げる考えである。

（能力基準について）

「的確に、かつ、継続して行うに足るものとして定める基準」については、経営的な問題ではない。技術的な能力であり、本検討会で審議する。

（経理的基礎）

経理的基礎については、通常の設置許可で判断する。

議事（２）本検討会の進め方

○資料１ 廃棄物熱回収施設設置者認定制度に関する検討会 設置要綱

○資料３ 本検討会の進め方（案）

資料に基づき、内容の説明を行った。

（第２回以降の検討会開催日時について）

第２回検討会

平成22年11月22日（月）10:00～12:00

場所：全国町村会館 第3会議室

第３回検討会

平成22年12月27日（月）14:00～16:00

場所：航空会館801会議室

議事（３）熱回収施設設置者認定マニュアルにおける検討課題

○資料４ 熱回収施設設置者認定マニュアルにおける検討課題

資料に基づき、内容の説明を行った。

（熱回収の年間平均値）

1年間に利用された熱量を、入った廃棄物と外部燃料の入熱で割って算出する方向。休炉や季節変動の取扱等については、本検討会で審議する。

（電気と熱の評価について）

電気と熱は等価で考えている。

（新設と既設の熱回収10%の基準について）

新設も既設も同じ基準である。ただし、新設については、補助金等により、よりトプランナーに近い施設を作っていただくよう働きかける必要がある。一方、既設については、熱需要が少ないなどの現実を踏まえることが必要。

（熱回収採用の可否）

熱回収採用の可否は、環境を守るという趣旨の設備（公害防止設備）に使われているものは可としてもよいのでないか。

（外部燃料入熱熱効率 0.4 について）

外部燃料入熱の熱効率については、投入エネルギーがRDFやRPFなど石油類以外を石油類と同じ係数を掛けることについては、再検討する。また、施設全体として熱回収率を引き上げると言う考えから、幾つかのシミュレーションを行なって検討する。

産廃の場合、焼却せざるを得ない液体の廃棄物など、いろいろなカロリーを持った廃棄物が入るため、その適正処理のための投入外部燃料については配慮すべき。

以上